

出向く宮農レポート

尾張旭地域 地元の野菜を子供たちへ



尾張旭地域担当
山内

尾張旭市では「愛知を食べる学校給食の日」として地元農産物を使った給食が作られています。同地域の稲作農家である祖父江さんも給食にお米を提供しており、子供たちにおいしいお米と野菜を届けるため日々取り組んでいます。



①

祖父江さんは米のオペレーターであるとともに、遊休地を活用して野菜も栽培しています。今回、稲作の間に取り組める野菜はないかと相談され、秋作スイートコーン（8月中旬に種まき、10月下旬に収穫）を提案しました。

①夏の種まきには雑草防止の為マルチが欠かせません。マルチに一つずつ穴を開け、約1400株を1粒ずつ種まきしていきます。



②葉の数で何葉期かを確認します。ちょうど7葉期だったため、追肥を依頼しました。



②

③種まきの約2週間後、6～7葉期の様子です。今年は暑い日が続いたため、芽が出るか不安でしたが、祖父江さんの小まめな水やりと管理により、順調に育っています。



③

10月下旬の稲刈りが終わるとスイートコーンの出荷が始まります。それに併せて、サツマイモ約300kgの収穫も始まり、産直や市内の給食に出荷予定です。

